その外構工事のお話がありましたけども、これについては、私どもは公共交通の結節点としての拠点という位置づけは、どうしてもこの場所には必要だということは、公共交通の立場も踏まえて考えてましたので、この分については動かす予定はございません。

○議長（堀江　政武君）　１３番、小宮教義君。

○議員（１３番　小宮　教義君）　国を欺かないように、市民は慣れとりますけど、国は大きい機関ですから、慣れてないようにございますから。国を欺かないような行政をしなければいけないと思いますよ。

最後に、あれがありますね……。

○議長（堀江　政武君）　小宮議員、時間になりましたので簡明にお願いします。

○議員（１３番　小宮　教義君）　わかりました。

責任の取り方がたくさんございましょうけれども、市長はいつも単独で決めるけれども、このバス停もそうです、ほかにもいっぱいございます。

やはり、自分の考えがすべてじゃないんですよ。１０人いれば１０人の考えがあるんですよ。それぞれの意見をまず聞くこと。これが行政の始まりです。自分勝手にあれを決めたり、これを決めたりするのはとんでもないことだ。だから、よく市民の声を聞くように。まあ、私の大義ですけど、市民の声を生かすということですけども、ぜひ市民の声を聞いて。単独はいけませんよ。だから、こういう失態を招くんですよ。そして、責任をぴしゃっと取る。これが一番です。市民をだまさない。

以上。

○議長（堀江　政武君）　これで小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（堀江　政武君）　暫時休憩します。再開は２時５分からとします。

午後１時51分休憩

午後２時04分再開

○議長（堀江　政武君）　再開します。

４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　清風会の船越洋一でございます。通告に従いまして、２点について市長の考え方をお伺いをいたします。時間が５０分しかございませんので、前置きはやめまして本題に入らせていただきます。

１点目は、人口減少に対する施策はあるかお伺いをいたします。２点目は、お船江広場に公衆トイレ及び堤防突端に常夜灯の設置はできないか、以上２点についてお伺いをいたします。

まず、１点目の人口減少に対する施策はあるかでございますが、現在の日本国内の人口は都市部に集中し、地方の人口は減少の一途をたどっており、我が対馬においても昭和３０年代前半は６万9，０００人ぐらいいた人口が、平成２６年8月末で3万3，０００人まで減少し、２５年後の対馬の推計人口は1万8，０００人と言われており、そのうち６５歳が８，０００人、１５歳から６４歳が8，０００人と推計をされております。生産年齢者１人が高齢者１人を支えるという状況になります。

国も、地方のそのような状況を踏まえ、地方創生まち・ひと・しごと創生本部を立ち上げ、秋の臨時国会に議員立法で法案を提出し成立を目指すとのことで、１年ぐらいかけて内閣官房が検討していくところであります。

また、長崎県も、対馬交流人口拡大プロジェクト推進会議を設置され、対馬振興局、対馬市、島内の１５団体で組織され、観光客増加の効果を島内全体の雇用や生産、消費の拡大につなげることが目的ということで今後協議がなされていくと思われます。

そこで平成２５年度の移動者数を見てみますと、平成２５年４月１日から平成２６年３月３１日までの1年間で、出生者数は２７２人、死亡者数は４９４人、転入者数は1，３３１人、転出者数は1，７１２人、出生者及び転入者で1，６０３人、死亡者及び転出者で2，２０６人、結局1年間で６０３人の減少であります。

また、本年4月1日から7月３１日までの3カ月間で、出生者７６人、死亡者１５７名、転入者数４１６、転出者数３７３、出生者数及び転入者で４９２人、死亡者及び転出者で５３０人、３カ月で３８人の減であります。

そういうことで、現在の福祉施設の入所状況を見てみますと、特別養護老人ホーム５カ所で定員２３０名に対し利用者が２３０名、待機者が３２５名、介護老人保健施設２カ所で定員が１６０名、利用者数も１６０名、待機者は１００名であります。特定施設入居者生活介護３カ所で定員が１６０名、利用者１６０名、待機者が１８１名、認知症対応型共同生活介護６カ所で定員が６３名、利用者数６３名、待機者は３８名であります。待機者数が６４４名になりますけども、複数の施設に申し込みが行われているもので、実待機者数は３２６と言われております。

次に、高齢者率を見てみますと、平成２５年度で３１．３％、年々上昇傾向にあります。介護保険料基準額は5，５２０円で、全国平均は4，９７２円であります。

次に、保育所の入所状況でありますが、島内の保育所、保育園は２２カ所で、入所児童数は０歳児４６、１歳児１００名、２歳児１４６名、３歳児１８２名、４歳児２１２名、５歳児２２６名、合計の９１２名であります。

なお、定員は1，２２０名でありますので、まだまだ余裕はございますが、地域によっては定員オーバーのところもあります。

それで、まず保育料の金額がどれぐらいかかるかというのを、目安をちょっと一例を上げてもらいました。夫婦と子供２人の４人家族で、父親が給与１８万円、お母さんがパートで８万円、第１子が小学生、第２子が５歳児で保育所入所の場合、それぞれの控除内容によって違いはありますけども、入所料は約１万４，８００円ぐらいになるとのことであります。

また、島内の２６年度の３高校の卒業生は、対馬高校１４９人、豊玉高校２１人、上対馬高校４１人、合計の２１１名でございます。うち島内の就職者は２０名であります。対馬の有効求人倍率は０．８３％であります。

このような状況の中で、今子供の出生、それから子供の保育所の入所者数、いろいろもろもろ言いました。それから高校生の卒業生の数も言いました。これぐらいやっていくと、どんだけ人間が減っていきよるかというのは、おのずからわかると思うんです。２５年後には１万８，０００人になるというのは大方の検討がつくと思うんですよね。年に６００人、７００人ぐらい減っていけば、約そのぐらいにはなってくると思いますが。

やはり、これだけ減っていく現状を見てみた中で、今るる私も言いましたけども、こういう状況の中で対馬の首長として、どのようにして人口減少に歯どめをかけるか、その施策があれば一つ市長にお伺いをしたいと、このように思います。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　船越議員の質問に答えさせていただきます。

人口減少に対する施策はあるのかというふうな御質問でございました。これについて人口減少というのを抜本的にとめるのを、地方自治体が施策ということでは持ち合わせはないというのが、正直なこれは話です。

しかし、今取り組んでいる部分としましては、私どもは３つの力を合わせて「つしまヂカラ」と言っておりますけども、本当で地域資源というものをきちんと表に出していく作業をしないといけない。東京のほうを見ながらの資源探しではなくて、足元にある資源というのを見落としてきている部分があるのではないかという部分での本来ある対馬の底力というものをしっかりと見つめ直していきましょうよという話を、まず１つの力で言ってます。

２つ目の力として、私ども行政だけがやれた時代ではなくて、市民の皆様の考え方とか、地域の一体感の中で物事をやっていく部分というのが必要なんではないんですかと。そういう意味において、市民力によるまちづくりというものに取り組んでいきましょうという話をしております。

そして３つ目の力として、広がる力で未来づくりということで言っておりますが、まさに外の人たちの力をどのようにこの島で発揮をしていくか、そしてその方たちが持っている情報とか技術とかいうものを先ほど言いました底力、市民力に落とし込んでいくことをしないといけないんではないかというふうなことを、ずっと言い続けておるところであります。

そういう中、ことしから今ＪＡの組合長をはじめ各機関の代表の方たちで構成をして話し合いが始まりましたが、異業種の連携協議会というのを立ち上げて話し合いを始めたところであります。それぞれがそれぞれの業種だけで考えていっても太刀打ちいかないんではないかというのが、その機関の長の方たちからもお話が出ておりました。それぞれの弱み、強みというのをしっかりと捉えて、それぞれ全体の業種が一つになって動き出すことをつくり出す意味において、そのような会議を設定をして動き出したばかりであります。

また、そういう中、５月の下旬だったと思いますけども、地方の元気創出プランというのが総務省のほうから出されました。新しい骨太方針の中に、そのあたりのプランづくりというのが形にしていく予定だから、どのような動き出しを地方のほうがしてもらえるかというふうな投げかけがありまして、私ども帰ってから今の言う異業種の問題もありましたし、また個別で、そこにも落とし込んでおりますが、個別で産業界と産官、私ども、そして学の大学等々専門機関、それから金融機関、産官学金と言っておりますが、この４者がその計画をつくり上げて、国のほうは１万のプロジェクトを吸い上げていきたいということで、来年度の概算要求もされているようにあります。

そして、各省庁の予算を概算要求の状態を横断的に見ますと、各省庁がそこの地方創生に向かっての連携をしていく枠というものを組み立てておられるようにあります。まさに５月の下旬に総務省の課長のほうから話を聞いた内容が今度の概算要求の形になってきているんだろうと思いまして、それらのことをしっかりと私ども行政もそうですが、市民の皆様にもおろしていく中で、そこに向かっていかないといけないと思ってます。

その国が言ってることはどういうことかと言いますと、大きな企業とかいうものは生まれてこないことをもう想定されてます。都会と田舎というふうな考え方でいった場合、田舎においてわずかばかりの雇用でも創出することが大事だし、その地方における将来的な都会とのかかわり方というものを明確につくって、都会の人材を地方のほうに流し込んでいこうというふうなこともそこには見え隠れしております。

まさにそのような方向というのは、３つの力を申し上げましたけども、そのあたりの流れとも合致するんだろうと思っておりますが、理念ばっかり言ってても私も始まりませんので、そのあたりについては既に担当課のほうから新政策推進課のほうがそれを頭になって、各部署、各機関にそのことについては説明会等もずっと開きながら、今は落とし込んでおるところでありまして、どういう形で１０月中旬だったと思いますが、それがまとまっていく作業をしていくんだろうと思います。

行政として、そのあたりの産官学金、金融機関からの金の流れというのもスムーズに流れていく形、その計画に上がれば、国の１万プロジェクトに認定されればいくということでございます

ので、まさに今回つくられた地方創生の本部ですかね、総理大臣が本部長で石破大臣が副本部長のようにありますが、そのあたりの本部が中心となって地方の問題について取り組んでいっていただけるものと思いますので。向こうが求めるものではなくて、私どもがこのような地域とか地区とかいう単位で組み立てをしていくことをしっかりと伝えていきながら、そしてそこにわずかばかりの雇用が幾つも集まっていくようなことというのがすごく大事なんではないかというふうに思ってます。

私どもの島であれば、もう第１次産業というものの再生といいますか再興といいますか、そのあたりの根本的な組み立て直しというのが必要だと思ってます。そこに絡んでくる問題としては、当然観光とかいうのがそこには絡んでくる問題だと思っておりますし、それをどのように絡めて第１次産業等の組み立て直しをするかということだと思ってます。

また、エネルギーの問題についても取り組んでおりますが、この問題についても当然水産業に寄与できる問題だと思ったり、林業の活性化につながることにもなろうかと思います。当然エネルギーそのものの施設に対しての雇用というのも生まれると思ってますが、私は水産業における水産物の資源管理の問題とか、それから燃油のたき減らしの問題とかに当然つながっていくエネルギー政策だというふうに思って、今これには取り組んでおります。

当然それぞれの産業が元気になることによって、自分らが汗かき働き、そしてふるさとであるこの対馬というところで生き続けられる形というのをつくっていくことが、私ども行政に求められているんだなというふうに思って取り組みはさせていただいておるところであります。

以上です。

○議長（堀江　政武君）　４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　市長ね、言われることはわかるんですよ。しかし、やはり対馬の島民の方たちが、東日本大震災がある前はNUMOの核燃料最終処分場いう話も一時出ましたよね。あれはやはり対馬はこのままじゃ沈むぞと、国からの補助金でももらわんと沈むじゃないかという、そういう不安感があったからこそそういう話も出て、青森県の六ヶ所村にも二、三十人の人が視察にいったという経緯もあるんですが、要は震災があった後には、もうその話は断ち消えてしまいましたよね。やはりそういう危機感というのを島民の皆さん、みんな持ってるんですよ。

今現在、対馬の中で何かやろうとしても資本力がないんです。経営者が、それだけの資本持ったところがないんです。だから何やろうにも、まず行き詰まってしまうというのが現状なんです。

今言われるように、県が主体となって、交流人口拡大プロジェクトというのをつくって、いろんな業界団体が集まって、いろんなことをやろうという協議が始まったということですが、やはりそれも恐らく行き詰まってしまいますよ。議論はしますけどね、要は金がないんです。１５団

体ありますけど、１５団体がみんな出資して何かやろうかと言ったって、そこまでは私は行き着けんだろうと思う。そういう小さくやっていきながら、雇用を少しずつふやしていこうということは、まずできるかもわかりませんが。

先ほど小宮議員が言いましたように、何かの起爆剤が要ると思うんですよ。例えばカジノをやるのも一つの起爆剤になるでしょう。あるいはオスプレイを持ってくるのも一つの起爆剤になるでしょう。いま一つは３，０００人から５，０００人規模の刑務所の誘致、これも一つの方法でしょう。そうするとやっぱり変わりますよ。一遍に国のお金がぼんと入ってくるわけですからね。

そういうことも含めた中で、小さくは県とか団体とかでいろんな話はしていきながら、根ではそれをしっかりとやっていきながら、やはり行政たるものそういうところにも目をつけて、足を運んでどれがいいのかというのは、目をつけて引っ張ってくるようなことも考える必要が私はあると思うんですよ。

例えば、ＬＣＣの飛行機を呼ぶにしても、あれは大型ですから、対馬空港は１，９００メートル、ＬＣＣ呼ぶには２，０００メーター要る。小型機を、もうちょっと小型化せんことには入れんわけですね。今一番問題になっているのは何かと言うと、国内からの観光客が来るにも、例えば対馬から出ていって一家で里帰りしようにも航空運賃が高い、船運賃が高い、一家そろって帰ろうと言ったら１０万円以上かかる、これじゃ里帰りもできんというのが現状なんです。

だから、やはりそういうことがネックになっとるわけですから、それを打破するためには、交付金なりそういう補助金なり国の金を引っ張ってくるような施策を何か考えてこんことには、どうにも先行きならんことなってくると思うんです。雇用を生まないかん、雇用を生まないかんと言いますが、なかなかそこまで私はいかんと思う。ですから、そういうことも一つ考える必要があるんじゃないかな、思います。

それから国境離島特別措置法、これも今国会の秋の国会には何とかというような話も出ましたけども、しかしこの秋の国会にはカジノ法案が出ますし、それから地方創生、これも出ますよね。これは２つとも議員立法です。議員立法で両方とも出してくるわけですから、やはり国境離島というのは一つ置かれた感じだろうと、私はそう思うんです。だから来年の通常国会にはというような話も出てきてますけども、何とかこの国境離島特別措置法というのが通っていただければ、対馬も何とかいい方向にいくんじゃないかな、これは期待せにゃいかんと思いますが。

地方創生関連予算では新聞報道によると、２７年度に２，５００億ぐらい盛り込むというようなことも新聞報道にも出てました。ですから、やっぱりそういうことで石破幹事長が今度担当相になってやるということですから、地方のこともしっかり見てくれるとは思いますが、先ほど市長は行政がということじゃなしに、行政は行政でそういうところでしっかりと動いてもらわんと、なかなか歯どめがかからんと思いますよ、私は。

ですから、そういうことも含めて一つ考え方を、今私が言いましたね、そういうことを含めた中で、先ほど小宮議員もちょっとそこまでは行き着いてませんので、やはりそういう施策は私は必要だと思うんです。答弁お願いします。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　特別措置法の問題については、皆様方と同じように動いているつもりでございますし、これからも来年の通常国会に上げていただけるように動き出しはしていきたいと思っております。

次の点につきましては、この対馬における最終的な生き方というものをしっかりと見据えて、私に入ってくるさまざまな情報とか人とかいうものの中で、しっかりと判断はしていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江　政武君）　４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　もう少し市長ね、元気を出してやってください。というのは、冷え込んでいくと、この１万８，０００人を切ると対馬の商売人というのはできませんよ。今対馬全島のスーパーあたりでずっと見てみますと、１００億から１５０億ぐらい購買はあってると思いますよ。ところが、これ１万８，０００人になってきますと、もうそういうところは出店できませんよ。だからそういうことが、もう先に見えてくるわけですから、それは食いとめなきゃいかん。食いとめるためにはどうせにゃいかんかということは真剣にやっぱり考えないかんと思う。

行政の中でそういうことをやる、小島議員も言ってましたけども、担当部署はどこかというようなこともありましたがね。そういうところも一つはつくって、真剣に取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思います。

先ほど言いました刑務所の誘致、こういうことも考える必要が私はあると思うんですよ。頭の片隅に置いとって、やっぱりどっかそこら辺でやれるときがあったときには、そういうことも含めて考えていただきたい、このように思います。

それから地場産業を見てみますと、農林水産業にはいろんな国の補助制度というのがありますよね。ところが対馬は真珠業、真珠というのも、これは昔から大変頑張ってあるわけですが、ここら辺についての市、国、県の補助金等々どういうものがあるのか、一つお知らせをしていただきたいと思います。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど刑務所のお話がありました。これにつきましては、実はことし何月だったかちょっと月は忘れましたが、それと四、五年前ですか、法務省の矯正局のほうに御相談に行かせていただいたところであります。その段階において全国で確かそのとき５１番目だったと思いますが、もう既に５０団体来てるというふうな話がありました。

ことしの話では、五、六年前というのは飽和状態だったんですね。それでどうしても必要だということで全国につくられた経緯がありますが、今は逆に若干余裕が、余裕があるほうがいいんでしょうけども日本の治安のためには、余裕があるというふうな表現されました。

その中で私どもとしては、当然つくられた場合、島内のいろんな産物がそこで使われたりということもありますし、もしＰＦＩでその事業をつくり上げた場合は、いろんな警備会社等がそこをつくり込んでいくということにもなりましょうから、そこの雇い入れとかいろんな形のものがあるんだろうなと思いながら、そこには相談には行かせていただいたところであります。

また、真珠のお話がございました。真珠、要するに養殖関連に関しまして、真珠のみならず養殖関連については、ほかの業態よりも手薄な措置だというふうに私も感じております。それは私たちだけの話ではなくて、国からの一つの方向性がそのあたりにあるんだろう。だから、補助とかじゃなくて融資とかいう形での物事のつくり込みがされているというふうにも思っております。

ただし、前回中村知事と真珠養殖の若い経営者たちとの話し合いにも参加させていただきましたが、今は一昨年に比べて３０％ぐらいいい状況があるんだという話も確かあったと記憶しております。ただし、今度はそこに雇用があるのに、雇用で今度は勤めてもらえないということがあると。それを一生懸命にハローワーク等に持っていくが、そこに勤めていただけんで困っていると。逆に人が勤めていただけないことに対しての将来的な事業継続の不安があるという話があったというふうに、そのときは思っております。

○議長（堀江　政武君）　４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　真珠養殖について、私もちょっと調べてみたんです。やはり、この真珠養殖というのは、全国的に言いますと１番目が愛媛県、２番目が長崎県、３番目が三重県なんです。長崎県の大半は対馬なんです。これだけ全国的に有名な、世界的にも有名な対馬の真珠を基幹産業として、やっぱり行政も援助といいますか、そこら辺も少しは考えるべきだと思うんですよ。衰退していくのをじっと見るんじゃなしに、やはりどういうことか手を差し伸べるということも必要だろうと思うんです。

購入する稚貝１個が４円ぐらいするらしい。それの補助金が１円ですよ。去年の対馬栽培漁業振興公社が８０万個生産をした、売れたのが５９万個、残り２９万個は廃棄。廃棄するんであれば、そういうところに無償でやっても構わんぐらいなもんじゃないかなと私は思うんですよ、有効活用してね。そういうことも含めた中で、基幹産業のそういうところを手厚くしてやるということは、私は大事なことだろうと思うんですよ。

最盛期には、３，０００人から４，０００人の雇用があったと言われておるですね。その当時は４６億ぐらいの売り上げが上がってる、４６億。ところが現在は、いろいろ阪神大震災とか円高とか、それから天候による大量死とかいう被害があって、２５年度には４６業者、最盛期には

９６業者あったんが今現在は４６業者、売上高で約１６億ですよ。

例えば最低賃金というのは東京でいきますと８８８円です、１時間当たり。長崎県は６７６円ですか、今度１０月から１３円上がりますからね。だから２１１円ぐらいの差があるんですよ。ですから、これは県でやるわけですから対馬だけ上げるわけにはいきませんが、要はそれだけやっぱり低いんです。低い上に対馬は特に離島やから物価が高い、給料は安い。それでやはり人口は高齢者がふえていくことによって介護保険料も上がってくる。いろんなマイナス面が多いんじゃないかな。

生産年齢者を上げていくにはどうしていかないかんかな。そこら辺を考えてみますと、やっぱり保育所、保育園の園児、これは将来の若者が育っていくわけですから、ここら辺にもやっぱり、先ほど言いましたけど１万４，６００円ですか。家族的な負担も大変なもんだろうと思うんです。これは１人の子供だったらいいんですが２人いくとまた変わってきますんで、やはりそういうのは負担がかかって消費が伸び悩むという傾向もあるでしょう。だからやっぱり行政として思い切った施策をやる必要がいるだろうと、私は思う。

将来の子供たち、将来青年になっていって生産年齢に上がっていくまでは言いませんが、やはり保育所の金額、１人当たり今１万４，８００円ですか６００円になるやつを、５，０００円ぐらいは市が負担してやって、未来の投資だというぐらいの気持ちで、子供たちを手厚くしてやる、あるいはまた福祉施設についても待機者が今３２６名。そうしますと、これは自分のお父さん、お母さんが家におるから働きにもいけんという人もおるんでしょう、自分で介護せにゃいかんから。施設がないわけですから。

だから、今からの対馬の持っていきようというのを、やはり子供をしっかり育てやすい島にしていくのか、あるいは老人福祉が完全になって、安心で対馬で老後を暮らせるというふうにしていくのか、そういうことも含めてやっていくには、どうしても外資の金を引っ張ってこんことには。今から交付金も削減されていくんですよね。そうしますと余計に厳しくなってきます。それがどうしても外資の金を引っ張ってこんことには、私は先行きえらくなってくる、このように思います。それがやっぱり人口減少の歯どめをかけるには、やっぱりそういうことも必要だろうと思います。

それと、交流人口をふやしていくには、思い切った政策が先ほど要ると言いましたが、今度今中対馬病院ありますよね。これは土地も、確か建物も病院企業団の持ち物だろうと思いますが、やはりあそこは今度新病院ができたら解体するだろうと思うんですけどね。

今言いましたように、要は農業、林業含めて、農林会館ぐらいをあそこら辺につくって、それに真珠組合も連携をしていただいて、例えば真珠のそこで販売をするコーナーをつくって、対馬の真珠ですよというのを出すようなところも展示場もつくる。あるいは対馬産ヒノキを加工して、

そこで売る。あるいはまた農産品をそこに持ってきて農業の人たちが売る。道の駅みたいなそういうこともできるぐらいのやはり施設というのは要ると思うんですよ。

今現在農協会館にしても今厳原にありますが、あそこはバスもとまりません。そういうふうな販売をするにもできませんよ。旧中対馬病院跡ですとバスも入りますし、駐車場もゆっくりとれますから、やはりそういうことも含めた中で、そういうことも考えていただきたいと思います。

それから、市長、「韃靼の馬」という本を読んだことありますかね。ないですか。（発言する者あり）全編読んだ。（「読んでません」と呼ぶ者あり）読んでない。これ私も読んだんですけど、対馬藩士の阿比留克人と利根という２人の主人公がおるんですが、これが朝鮮通信使でずっと江戸まで行って、江戸家老の平田直右衛門とか雨森芳洲とかいろんな人との交流、朝鮮通信使のことも出てくるんだ、話が。帰りがけに大阪に行って、大阪で朝鮮通信使を切る。切って、切ったやつを雨森芳洲とか大阪の豪商の唐金屋ですか、対馬藩とかかわりのある人なんですが、その人が韓国に逃亡させるんですね。逃亡させて韓国で将軍家から対馬藩に韃靼の馬を調達せよという命令が来る。それを韓国で韃靼の馬というのを阿比留克人というのが潜伏をしとってやっていくという、そういうふうな大まかに言うとそういう物語。ところが朝鮮通信使というのが、ずっとそこに出てくる。雨森芳洲先生というのも出てくる。

歴史的なそこの中での本なんですが、こういうこと含めてテレビ化するとかいうことによって、今対馬でもやってますけども、朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産、こういうことにも大きくこれはつながっていくんじゃないかな。あるいはまた交流人口の拡大にもつながっていくんじゃないかな、こういう気もするんです。

五島は、この前新聞に載ってましたけど、五島を舞台に中学校の合唱部員たちの青春を描いた映画「くちびるに歌を」というのがクランクアップしてるんです。これが７月の中旬から８月上旬にかけて、もうやってるんですけどね、ロケは。これ三木孝浩監督がやっているんですが。

そういうことも含めた中でテレビ放映をすることによって、そこの地域がクローズアップされるということも一つの方法でしょう。やっぱりそういうことも含めた中で、交流人口拡大プロジェクトチームの中でも、いろんな業種の方がおられるわけですから、いろんな友人、知人の方もおられるでしょう。あるいは東京対馬会もあるでしょう、関西もあるでしょう、福岡があるでしょう、長崎もあるでしょう。そういうところに投げかけて、そういうことを一つ一つ積み上げていくということは私は必要だろうと、そう思うんですが、市長どう思います。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　「韃靼の馬」については私も、全編は読んでないんですが、阿比留克人が出てくること等々については知ってますが、辻原登先生とつながりのある職員並びにＯＢもおりまして、確か１カ月ぐらい前、２カ月になったかな、ちょっと定かじゃないですが、辻原先生

のほうから直接電話があって、この「韃靼の馬」に関していろんなところから今、本人もアプローチかけてるし、向こうからもかかってくる、テレビとかの話だったと思いますが、映画じゃなかったと思いますが。そういうことが来てるよというふうなお話も、私のほうにも直接その方からも話がありました。

また機会がありましたら辻原登先生のほうにもお会いをし、そしてまた今おっしゃられたようにそれだけではなくて、関西対馬会、東京対馬会さまざまなそういう出身者の方たちに対して、そういうフィルムコミッション的なものをどのように組み立てて、何かないかとかいうことは投げかけは、当然やっていかなくてはいけない問題だというふうに、今お話を聞いてても感じておるところであります。

○議長（堀江　政武君）　４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　ぜひ、辻原先生とも面識があるんであれば、そういうこともやっぱり対馬市からもアプローチをする、朝鮮通信使の記憶遺産にかかわる人たちにも、そういうことの話をしていただいて、やっぱり辻原先生ともいろんな話をしていただいて、いろんなところからアプローチをして、そういうことを一つテレビドラマ化すると変わりますよ。やっぱりそういうことも必要だろうと思うんですよ。

ですから、先ほど言いましたように対馬には資本力がありません。何とか人口流出に歯どめをかけるには外部の資本が要ります。あるいはテレビ等でそういうことをやって、いろいろな流入人口を入れる。あるいはまた韓国との交流の中で、それをやっていくということも必要でしょう。

そこら辺を一つ一つやっぱり、これは我々が主導でやるわけにはいきませんので、行政の中に担当部署一つぐらいつくって、そういうこと専門にやっていくぐらいの気迫が私はあっていいと思うんですよ。どこの課でもいいんですがね、やっぱりそういう担当者を１人置いて、こういうことに積極的に取り組んでいって、こういうふうに対馬変えていくぞと、行政はこういうふうな取り組み方をしとるぞと。議会にそういうことを発表して、議会の皆さんも応援してくださいというぐらい、反対に持ってくるぐらいにすると、議員のほうもやっぱり一生懸命なりますよ。皆さん、議員、そういうふうに人口減少については、皆さん、みんなそれは関心は持っとるわけですから、どうかしたいという気持ちがあるんですが、我々が先に動いてどうのこうの、行政を置いてどうのこうのというわけにいきません。しかし、応援は我々もいろんなところでそういうところのことはやっていってますけど、しかし、我々が動くよりも行政にそういう部署があって、そして、そこから出て行って、こうですよ、ということは示してほしい、そう思うんですが、そういう課でもつくってやるぐらいの気迫がありますか。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今の政策企画課が中心となって、この問題には取り組んでいるところで

ありますが、横断的なそのような部をプロジェクトチームをつくるのは、可能でございますが、少なくとも、今こういうことが我々の自治体にとって、とても大きな政策課題だということは、各部もそれぞれ考えてはおるところであります。それらを今までひとまとめにして、組み立てていたのが政策企画課でありますし、またその中で、ほかの部には直接つながらないであろうけども、特化して取り組んでいかなくてはいけないというところで、新政策推進課と未来創造・交通政策課を立ち上げて、別部署でやっていただいておるところであります。

今の御意見というのを、また持ち帰りながら、しっかりと取り組んでいきたいと思います。

○議長（堀江　政武君）　４番、船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　時間が３分になりました。最後に、お船江の件についてお伺いしますが、お船江広場に公衆トイレ及び堤防突端に常夜灯の設置はできないか、ですが、お船江は確かに観光客が今多いです。それと、お船江大橋をつくったときに、あそこのらせん階段の下は確か市があそこをちょっと買うとるはずなんです。私も定かじゃないんですが、確か買うとるはずです。らせん階段がこうあるところ。県か市かが買うてますよ。そういうところがあるはずなんですが、そういうところに、やはり、民家の人が、バスが大通りにとまるんです、とまったところの家に入って来るんです、トイレ貸してください。それが日本人ならまだしも、韓国人が来たということで、言葉がわからんで、「トイレ、トイレ」と言って、こう来るいうようなこともありますので、そういうことはできるだけないようにするには、観光地の一つですから、そういうこともないようなことを、ひとつ、ぜひ公衆トイレをつくっていただきたい。

もう一つは、お船江の堤防がある、突端があるんですが、そこに今、旧野良崎にあった燈明台、それをちょっと小さくしたような形の常夜灯ができないかということなんです。あそこを橋の上からバス等で通ると堤防がずっとすぐ見えるんです、下に。そうすると、そこにそういうものが建っとるということは、確かに昔、船がお船江に入る時に、これを目当てに来よったんやな、というふうなそういう思いは駆り立てられると私はそう思うんですが、どうでしょうか、市長。もう残り時間１分ですが。

○議長（堀江　政武君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　その突堤のところを市が買ったかどうかもちょっと私も定かじゃありませんが、どこの所有かも正直、難しい判断なんだろうと思います。昔からの護岸というのが。それに対する燈明台、常夜灯をというお話でございますが、お船江大橋との関係も当然あろうかと思います。高さ的な問題もあろうかと思います。どのような形が最もいいのかということの検討に入ってみたいと思います。

○議長（堀江　政武君）　４番。船越洋一君。

○議員（４番　船越　洋一君）　ぜひ、今言ったその常夜灯、並びに公衆トイレっていうのは、振

興計画にでも上げていただいて、ぜひ検討をしていただきたいと思います。これは、お願いをしときますので、時間来ましたので終わります。よろしくどうぞ。

○議長（堀江　政武君）　これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（堀江　政武君）　以上で、本日予定の市政一般質問は終わりました。

あすは定刻より、本日に引き続き、市政一般質問を行います。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後２時55分散会